

3 けが人などが出た場合

武力攻撃や大規模テロなどが発生すると、普段のように救急車がかけつけられないことも考えられます。けがをしてしまった場合、あるいは自分は無事でも家族や周りの人がけがをしている場合や応急措置が必要な場合に備えて、知識を身につけておきましょう。

■切り傷などにより出血している場合

- 出血している箇所を清潔なガーゼや布でやや強く押さえ、止血しましょう。
- 骨折がないことを確認した上で、傷口は心臓よりも高くしましょう。
- 包帯を巻くときは患部を清潔に保ちましょう。
- 感染防止のため、じかに血液に触れないように、ビニール・ゴム手袋やスーパーの袋などを利用しましょう。



■火傷をしている場合

- 流水で患部を冷やしてください。
- 水ぶくれは破らないよう注意しましょう。
- 消毒ガーゼかきれいな布を当て包帯をしましょう。

■骨折している場合

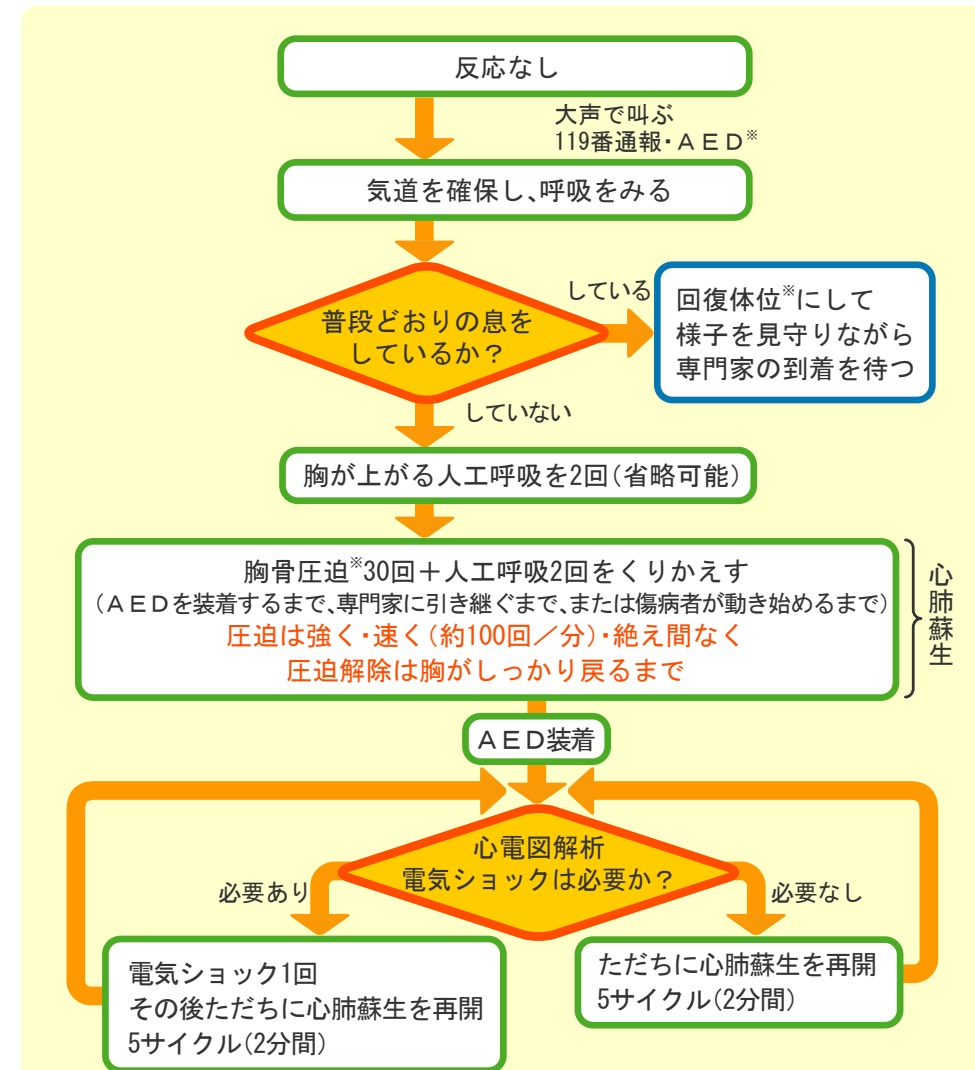
- 出血している場合はその手当てをしましょう。
- 負傷した箇所はあまり動かさないようにしましょう。
- 氷あるいは冷湿布などを利用して腫れや痛みをやわらげてください。
- 可能であれば、副木を当て、骨折部分の上下を固定します。
- さらに腕の場合は三角巾などで固定します。
※副木は、棒や板、傘や段ボールなどで代用できます。

■かゆみや発疹など皮膚に異常が見られる場合

- 汚染された衣類は、汚染物質が接触しないように切り裂くなどにより脱ぎ、ビニール袋に入れ密閉しましょう。
- 水と石けんで手、顔、体を洗いましょう。

■人が倒れている場合

倒れている人を見つけたら、周囲の安全を確認し、安全であると判断される場合は、以下のフローチャートの手順に従って、手当を行いましょう。呼吸や循環のサインが見られない場合、速やかな心肺蘇生が生命を救うことにつながります。



*AED……自動体外式除細動器(Automated External Defibrillator)を指す。
心電図解析及び電気ショックの必要性の判断は、AEDが行う。
*回復体位……うつぶせ気味の横向きに寝かせ、頭を後ろにそらせて、上になったひざを軽く曲げからだを安定させた状態。
*胸骨圧迫……心臓マッサージを指す。
平成18年8月15日消防救第110号「救急業務高度化推進検討会報告書」及び日本救急医療財団心肺蘇生法委員会監修・日本版救急蘇生ガイドライン策定小委員会編著・へるす出版発行「改訂3版 救急蘇生法の指針 市民用」より転記。